

せつぶん 節分

節分とは立春の前日のことで、鬼を追い払って新年を迎えるための行事です。本来、節分は季節の節目である立春、立夏、立秋、立冬の前日のことを言い、年に4回あります。ところが、二十四節気において立春は新年の始まりで、節分は大晦日に相当する大事な日なので、節分と言えばこの日を指すようになったのです。節分は西暦の2月3日前後にあります。

昔は、季節の分かれ目、特に年の分かれ目には邪気が入りやすいと考えられており、様々な邪気祓いの行事が行われてきました。節分の日に実施される豆まきも実は、旧暦の新年を迎えるための邪気祓い行事です。豆まきは、古代中国の「追儺」という桃の木で作られた矢を射って鬼を追い払う行事に由来するそうです。その行事は奈良時代に日本に伝わり、行事の一環である豆まきは江戸時代に庶民の間に広がりました。災害や、病、飢饉など、昔の人の想像力を超えた恐ろしい出来事は鬼の仕業だと考えられてきました。その鬼を追い払うのに使うのは、穀物の霊力が宿っているとされる大豆です。豆まきに使うのは「福豆」と言う煎ってある大豆で、豆を煎る理由は「魔の目を射る」ことに通じるからです。煎った豆は、神棚にお供えすることによって更に鬼退治の効果が高まるとされています。豆をまく時は、家中の戸を開けて「鬼は外、福は内」と大声で唱えながらまきます。また、一年の無病息災を願って、年の数だけの福豆を食べる風習もあります。大豆は味噌や醤油の原材料にもなっており、その30%はタンパク質で、ビタミンやイソフラボンも豊富に含まれていることから、健康効果も抜群です。

節分に柗の枝に鰯の頭を刺した「柗鰯」を飾る風習が平安時代からあります。柗はトゲトゲした葉が鬼の目を刺すので、悪霊を寄せ付けないとされており、鰯は焼いた時の臭いで鬼を遠ざけると言われてきました。また、節分に恵方巻を食べる習慣もあります。主に関西地方で親しまれてきた風習ですが、現在は全国的な広が

りを見せています。恵方巻は、七福神しちふくじんにちなんで七種類ななしゅるいの具ぐを使う太巻きふとまのことで
すが、その年の恵方えほう、つまりラッキー方向ほうこうを向いて丸かじりすれば願い事ねがごとが叶い、
商売しょうばい繁盛はんじょうや無病息災むびょうそくさいをもたらすとされる縁起物えんぎものです。巻き込んだ福まこを逃さないよう
に丸ごと一本いっぽん、無言むごんで食べ切ると良いとされています。長野県ながのけんや島根県しまねけんなどでは今
でも節分にそばを食べる習慣のこが残ちいきっている地域としこがあり、それは年越しとしこそばの始まり
ともなっているようです。現代げんだいでは、国立天文台こくりつてんもんたいの観測かんそくにより「太陽黄経たいようこうけいが315度
になった瞬間しゅんかんが属ぞくする日りっしゅん」を立春ゆえとしている故ぜんじつ、立春ひづけの前日へんである節分も日付どうが変
動どうします。2021年の節分は2月2日なんなんとうで、恵方みなみは「南南東なんなんとうやや南」です。2020年まで
の37年間は2月3日でしたが、1984年の節分は2月4日でした。2025年の節分も今
年同様どうよう、2月2日になるようですが、今後こんご100年ぐらいは2月2日か3日のどちらかに
なるそうです。

節分ちかが近づくと、スーパーなどで煎り豆ならや恵方巻なが並ぶようになり、手作りてづくしな
くても簡単かんたんに入手にゅうしゅできるようになっています。豆まきの行事じんじゃは神社おこななどで行われる
こともありますが、幼稚園ようちえんや保育園ほいくえんなどではスタッフふんの扮した鬼とうじょうが登場えんじし、園児こわた
ちが怖こわがりながらも豆ばめんでそれをやっつける場面じだいが見られます。時代ぜんしんを前進かくさせる革
新しんも大切たいせつですが、日本の伝統でんとうを重おもんじる姿勢しせいも評価ひょうかすべきではないのでしょうか。